

AA日本ニューズレター

私書箱

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-3590-5377 〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F

No. 37

第12回ワールドサービスミーティングに出席して

テーマ： サービス—それは全員の特権

WSM後期評議員 山本

一広範囲にわたる議題の中から、紙面の関係上、特に印象に残ったものをここで紹介したい。

パースディ・メダルについて

WSM開催前日の夕方、ニューヨーク・インターグループのメンバーが主催するホテルの歓迎ルームへひとりで行き、メダルやグッズが買いたいのだけれど、と言った途端、先に到着していたアメリカの評議員から、「ここはAAだから。AAではそういうものを扱っていない」と一言。WSMがまだ開催されていないのに、メダルはAAの霊的なプログラムに含まれるのか否かの、熱い議論を戦わせた。たしかにAAの回復のプログラムのなかにメダルのことは書かれていない。日本で行われているパースディ・ミーティングや色紙、メダルについては、かねがねこれがAAのプログラムとしてあるのか疑問に思っていたものの、我が国では確固としたセレモニーであり、ハワイやカリフォルニアやシアトル55周年に行ったメンバーもいろいろなグッズやメダルやらを持ち帰っている。「ハワイのやり方も、カリフォルニアのやり方もそれはAAの中の一つのやり方であって、一部のAAのやり方を見て、それがAAのすべてだと理解してほしくない。シアトル55周年と、いってもそれはAAの会場の外で販売していたのであり、外で何を売ろうと、それを禁止する権限はわたしたちにはない。」

この議論はWSMの全体会議に引き継がれたが、メダルのことを問題にしているのは、アメリカと我が国だけのようで、ほかの国ではメダルというのは個人的にメンバー間で手渡されていくことはあっても、グループとしては扱っていないということで、あまり関心が示されなかった。けれども少なくとも、AAのオフィスがメダルを発行して販売するのは望ましくないというのが全体的な意見だった。WSMの開会早々に我が国にとっての課題が提示されたわけである。

国際出版基金について

ミュンヘンの時に国際出版基金を作ろうという決議が出され、我が国でも年間予算を組んでその基金に協力している。以前はこの援助活動はアメリカ/カナダの常任理事会だけに任せっきりだったものである。自

国ではAA書籍やパンフの翻訳や出版が不可能だという国に対して、その基金でAA出版物発行の援助をしているのだが、現在は東欧諸国の言語はもとより、アフリカ、アジアの各国の言葉に翻訳されつつある。前回に引き続き今回のWSMでも、アルコールクが助けを求めたときに、その国の言葉でAAのメッセージを届けることは、先にメッセージが届けられた国々の責任だということでも話し合いが進み、まさに国境を超え、言語を超えたサービス活動について分かち合いを行うWSMの最も適したテーマだった。AAの本やパンフレットがそれほどまでに回復の第一の道具として考えられ、話し合われている時、すでにAAの本が出版されているにもかかわらず、それを読むことがあまり重要視されていない我が国のAAの現状に、歯がゆい思いが何度も押し寄せて来た。

サービス それは全員の特権

「サービスとは“上の”人達がやるもの。自分は回復することで精一杯でサービスのことなど考えていられない」。これは我が国だけではなく、世界共通のメンバーの思いのようだった。そんな“普通”のメンバーにも積極的にサービス活動に加わってもらえるよう、回復、一体性、サービスの関わりについて、それぞれの国の評議員の経験が分かち合われた。

ワールドサービスミーティングも同様に、“上の”人達が“上の”ことを話し合う会議ではなく、各グループで日常問題となっていることを、各国の経験をもとに話し合う会議である。今回のプレゼンテーションやワークショップでも、伝統について、あるいは概念について話し合うとき、まず、一人のメンバーの回復、一つのグループが出会った問題という地点からスタートして話が展開してゆくため、それまでわたし自身のなかでも、概念などは普通のAAの活動と掛け離れたところで独り歩きしていた部分があったのだが、日常のAA活動と密着したものであることを認識でき、非常に身近なものと感じられたのは収穫だった。

ついでながら、今回はサービスや概念の霊的な部分が全体的に強調された会議だった。

このほか、毎回必ず出る献金の問題、広報活動、出版物の著作権、各国間の協力等について話し合われたが、

現在報告書の翻訳作業を進めているので、是非そちらをお読みいただけたら、と願っている。

アメリカ/カナダ常任理事会

5日間のワールドサービスミーティングを終え、一日置いてアメリカ/カナダ常任理事会がスタートした。サービスマニュアルに紹介されている12種類の各常任理事会委員会が3日間で開催され、その委員会出席の招待をWSM評議員は受けたわけだが、わたしは「国際関係」、「矯正施設」、「広報」、「財務」、「専門家協力」の各委員会に出席してみた。オブザーバーとしてただ隅の方に座って見学させてもらうだけ、と思っていたので、気楽に出掛けて行ったのだが、「良かったらWSM評議員の人達も意見を聞かせてほしい」とか「日本の場合は？」などと、委員会の間に結構質問が回ってくるので、ここでもやはり緊張してしっかりと耳を傾けなければならない状況になった。わたし自身が出席して特に興味深かったのは、「広報」と「専門家協力」で、どちらもJSOでの仕事と直接関連があるため、例えばメディアを通しての広報活動の方法や、AAについての“お知らせ”の効果的な出し方、その内容について、また、AA以外の各種学会や会合の会場にAAが展示物や出版物をもって参加するやり方など、非常に参考になった。

常任理事会はノン・アルコールのA類常任理事とアルコールのB類常任理事で構成されているのだが、A類常任理事は、法律顧問、心理学教授、社会学者、投資コンサルタント、法務関係者、医学教授と、各分野で活躍する専門家たちから成っており、かたやAAメンバーのB類常任理事にしても、いろいろな社会的な分野や企業でやはりトップクラスで活躍している人達ばかりで、これらの最も忙しい人達がAAのサービス活動のためアメリカ/カナダの各地から、年4回開催されるこの会議のためにニューヨークに集まってきたという事実だけでも、AAの歴史の40年の差を見せつけられた思いだった。

また、面白かったのは、常任理事会全体会議で伝統7についてのプレゼンテーションがあったとき、献金のバスケットが回ってきたのだが、いくらぐらい入れて良いのかわからなかったわたしは、10ドル(1、200円ぐらい)紙幣を出したところ、8ドルおつりがきた。要するに240円の献金をしたわけである。(グリニッチピレッジのミーティングに出たときも、やはり献金は2ドルだった)。我が国のゼネラル・サービス・ミーティングのときなど、献金箱が回ると、最低が1,000円札、時には5,000円札や1万円札まで入っているのが普通であり、それを考えると、日本のAAメンバーの一人当たりの献金額というのは、随分高額であるとあらためて認識し、同時に我が国のAAメンバーに対して頭の下がる思いがした。

ワールドサービスミーティングを終えて

前回のミュンヘンの時には、ともかく無我夢中で、全力投球で、必死な思いで手を挙げて質問やら意見を述べてきた。今回は2度目で気持ちにゆとりができ、WSM評議員の中に親しい友人が何人もできたため、全体全議で意見を求めてシンドイ思いをするよりも、AAの歴史の長いアメリカ/カナダの評議員やニューヨークのGSOのスタッフに個人的に質問をし、答えをもらってしまおうという気持ちのほうが強く出てしまった。したがって、会議の最中よりも、休憩時間やミーティング終了後のアイスクリーム・パーティーで交わした熱い議論の方が非常に印象が強く、その分だけ実際の会議の印象が、わたしのなかで、ぼやけてしまった感がある。このことは、分かち合いをする場であるWSMの主旨からすれば、随分はずれているわけで、今はしゅんとなって反省しているところである。

今回、WSM評議員が女性というのは、日本からのわたしたち二人だけだったため(そして二人とも若くて美しかったため?)みんなから熱烈な歓迎を受け、特にニューヨークのGSOの女性スタッフたちからはエールを送られた。何はともあれ、朝早くから夜中まで、10日もの間、AAにとって何が良いことなのかということだけ目的を絞って話し合いをし、共に過ごした人たちとのことは、わたし自身一生忘れられない出来事のひとつになった。けれども、やはり言葉の壁は厚く、いまだに完ぺき主義が頭をのぞかせるわたしにとって、思っていることの10分の1ぐらいしか表現できなかったということは、恥ずかしく、残念だったという思いも非常に強くある。

とはいえ、このようなチャンスは、わたしがAAのJSOという場で仕事をしているからこそ与えられたことであり、そのことに対し、「大きな力」を感じ、単なる言葉の上ではなく、心の奥底からの感謝の気持ちでいっぱいである。WSM評議員としての任期を来年の報告会をもって終えるにあたり、WSM出席そのものが非常に大変だった分だけ、それによって得られた充足感は計り知れない。

このような役割は、AAメンバーの皆様から与えられたものだが、実際のところ、日本のAAのサービス構成の中にワールドサービスミーティング評議員というものがあることさえ知らない人のほうが圧倒的に多いというのが現状だろう。ましてや、自分たちのグループのミーティングを維持するだけで手一杯のメンバーにとって、世界もへたくれもないという思いのほうがはるかに強いと思う。そのまさに同じ思いが各国共通であること。それでも次の世代のアルコールのために、AAが存続する必要があること。そのためには、サービスをしていかなければならないこと。これらのことを報告会の中で少しでもお伝えできたらと願っている。

第12回ワールドサービス ミーティングを終えて WSM後期評議員 美松

皆様、ありがとうございました。お陰様で二人とも無事10日間のスケジュールを終え、11月初め帰国致しました。今回は「第12回ワールドサービスミーティング」で、10月25日から10月29日まで、ニューヨークのブロードウェイにある、ホリデイ・イン・クラウン・プラザで行われました。

テーマは『サービス 全員の特権』です。参加国は、25カ国、各国代表(評議員)39名、他にノンアルコホリックのチェアパーソン、始めGSOスタッフ達による進行係、事務局、通訳、地元ボランティアの歓迎係、スケッチをする方、そして評議員の家族の方々と総勢80名ほど集まりました。既にこのニュースはニューヨークタイムズ紙で報道されている旨を手紙で知らされておりました。会期は、5日間でしたが引き続き行われた「常任理事会」へも勉強のため、オブザーバーとして出席させて頂きました。

従って10日間のスケジュールは次のようでした。

- | | |
|--------|---|
| 10月24日 | JFケネディ空港到着
ホテルにて歓迎係接待 |
| 10月25日 | ↓ ワールドサービスミーティング開催 |
| 10月29日 | |
| 10月30日 | GSO及びグループ・バイン社見学。
評議員のAAミーティング |
| 午後 | ステッピング・ストーン(ビル・W宅)見学 |
| 夜 | 希望者のグリニッジ・ビレッジG、ミーティング出席後、セクレタリー宅でのアイスタリウムパーティ |
| 10月31日 | ↓ 常任理事会開催 オブザーバー参加
(初日は理事会主催のディナーパーティに招待されました) |
| 11月2日 | |

ぎっしり詰まったプログラムにもかかわらず、十分な休憩時間と食事時間のバランスがとてもよく配分されていて、気持ちもゆったりと過ごすことができ助かりました。24日の歓迎係の暖かいおもてなしを受けた後、25日いよいよ開幕です。会場ロビーには各国からのAAの資料が、ついたてやテーブルに展示され、青と白の風船も軽やかに待っています。

会場内は舞台の薄紫のカーテンのうえには紺色で『第12回ワールド・サービス・ミーティング』と書かれた幕が張られ、机のうえには各国の小さな国旗が仲良く3本セットで並べられています。いかにもワールド・サービス・ミーティングの雰囲気伝わってきます。受付で会議資料や小さな赤いリンゴのバッジ(ニューヨークの象徴)等を渡され、お互いの顔合わせ、フェロウシップから始まりました。開会式の前にとて



ビル・Wが晩年を過ごした住居(ステッピング・ストーンズ)

もコミカルな“伝統劇”を見せてくださいました。GSOのスタッフ達がビジネス・ミーティングをモデルに、グループのチョットおかしな伝統を演じてくださったのです。あまりに演技が上手で全員大爆笑。これでみんなが和気あいあい。しかも伝統の大切さを笑いの中から無意識に感じ取ってしまうような素晴らしい劇でした。

2日以後の会議は午前9時から午後9時30分まで、各国報告、テーマに即した代表意見と分かち合い、10名くらいずつに分かれてのワークショップや委員会、そして全体会議での問題提議と多種多様に内容が盛り込まれています。例えば『どのように、“私の責任”について考えていますか、一個人レベルで、グループレベルで、サービスレベルでは』とか、伝統や概念を中心としたテーマをワークショップで分かち合います。そして問題点がでたときには、当然ながら伝統を基軸にして意見交換がなされます。議事進行もGSOスタッフの方々のセクレタリーの手際のよさでスムーズにはかどり、終わるや否や事務局でタイプされ、その日のうちに手渡されます。時折、会議中に絵師の方がスケッチをしている風景も見られます。(ご承知の通りミーティングの中のカメラは禁止ですから)前列にいた私も非常に美人に描いて頂きましたので、もう本当に満足。

瞬間にWSM期間が過ぎ、次回開催地『コロンビアで又会いましょう』と希望して、全員が手をつなぎ、心静かに“小さな祈り”を最後に幕が降ろされました。世界が一つの輪となって、私たちのAAが発展することを祈りながら、……今、苦しんでいる人がいる限り……このあったかーい大きなAAの愛をもって、深い信頼のうちに、私を支えて下さった一人一人の方々に、心から“ありがとう”

いつもユーモアを絶やさずよく笑い、時には真剣に、又感動し、うれし涙で胸詰まらせて……、本当に素晴らしい出会いの旅でした。同行して下さった後期評議員の山本さん、そして日本の皆様、本当にありがとうございました。この『大切な時』を与えて下さった神に心より感謝します。

関東甲信越セントラルオフィスの 住所と電話書号が決まりました



住所 〒170 東京都豊島区
北大塚3-17-13

TEL 03-3576-2574

FAX 03-3576-9684

コピー、印刷機などの備品も着々と整備されて
おります。職員の人選も終わり、年明け早々
には業務を開始する予定でおります。地域に根
差したサービスを目指し、皆様のご期待に添
えるよう頑張っております。
今後ともよろしくお願い致します。

J S O からのお知らせ



年末年始のスケジュールは下記のとおりです。

12月 28日(月) AM 9:00~PM 7:00

29日(火) AM 9:00~PM 5:00

30日(水) AM 9:00~PM 5:00

31日(木) AM 9:00~PM 5:00

(ただし、入金業務はPM3:00まで)

1月 1日(金) 2日(土) 3日(日)は休業

4日(月)より平常どおり

ワールドサービスミーティング報告会について

今回皆様の特別献金によってWSM評議員2名が
参加してきましたWSMの報告会を各地域で開催
する機会を設けていただきたく、ここにお願い申
し上げます。基本的にはどちらか1名が伺います。
具体的なお問い合わせはJ S Oまでお願いします。



J S OではAAのサービスマークの特許庁への登録
申請をAA WORLD SERVICE INC
の名義で9月30日に済ませました。審査には1~
2年かかりますが、左記マークを機会を捉えてご使
用下さい。